学校番号	3020B

平成 31 年度　国語科

教科	国語	科目	国語総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「改訂版　標準国語総合」　（第一学習社）						
副教材等	「新修古典文法」（京都書房）「ことばを広げる新漢字ノート」（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・毎回の授業において何を学ぶかを明確にして授業に臨むとともに、知識の習得に加え、準備・提出物・予習・復習など基礎的な学習習慣の確立をより確かなものとすること。
・文章の記述や、授業中の発表に積極的に挑戦し、「書く・話す」能力のさらなる向上に努めること。
・現代文では、内容を正確に読解することに加え、「自分はどう思うか」という「思考」にも挑戦すること。
・古典では、文法事項の理解を進めるとともに、語彙を豊かにし、古文・漢文の世界に慣れ親しもうとすること。

2　学習の到達目標

・適切に思考を伝達するのにふさわしい語彙、語句を獲得しようとする。
・文の構造を理解し、内容・登場人物の心情を正確に読解することができる。
・適切な表現を用いて、意志、思考の伝達を確かなものとする。
・言語に対する感覚を磨き、論理的な思考力、豊かな想像力を用いて、様々な場面で目的に応じて使い分け、それぞれを活用することができる。
・伝統的な言語文化に関する関心を持ち、国語を尊重する態度を育んでいる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c：書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に、的確に聞きとったり、話あったりして、他者の意見を参考に自分の考えをまとめ、深めている。	自分の考えをまとめ、相手や目的、意図に応じて適切な表現による文章を書き、修正・補筆できる。	目的に応じて内容を抽象化して読みとるなどして自分の考えを深め、自省につなげられている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。
評価方法	行動の観察 発言の内容 記述の確認（ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等における態度、声の大小・抑揚等）	記述の確認及び分析 （ノート、ワークシート、原稿用紙等） 定期考査	記述の確認及び分析（ノート、ワークシート） 発言の内容 定期考査	行動の観察 記述の確認（ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

	上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
後期	古文に親しむ	【古典】 教材：「竹取物語」 教材：「絵仏師良秀」	◎			◎	○	ａ：現代語の物語の特徴と、古典の物語文の特徴を意識し、古典の世界を味わおうとしている。 ｄ：現代語の物語との差異を意識しながら、古典の作品における心情描写を読解できている。 ｅ：古文を読んで、用言を見つけることができる。	ａ：行動の観察、発言の内容 ｄ：定期考査、記述の確認 ｅ：定期考査、発言の内容
後期	漢文入門	教材：「漢文の学習」 「訓読に親しむ（一）」	◎				◎	ａ：我が国の古典にも受容されている漢文が、古典の形成に影響を与えたことに気づこうとしている。 ｅ：漢文を読む際に必要な訓読方法を理解できている	ａ：行動の観察、記述の確認 ｅ：定期考査、小テスト
後期	詩	【近代以降】 「I was born」	◎		○		○	ａ：韻文を鑑賞し、音読をとおしてその世界を味わおうとしている。 ｃ：表現技法によって生まれる印象の違いを書ける。 ｅ：韻文の形態の違いを理解できている。	ａ：行動観察 ｃ：記述の確認 ｅ：記述の確認、定期考査

後期	漢詩	教材：「春暁」「静夜思」「春望」	◎				◎	ａ：漢詩で描かれている世界を、音読を通して味わおうとしている。 ｅ：押韻や追句など、漢詩のきまりを理解できている。	ａ：行動の観察、記述の確認 ｅ：記述の確認、定期考査、小テスト
後期	漢字・語句	教材：「言葉を広げる新漢字ノート」					◎	ｅ：語句を豊かにするとともに、学習漢字の読み書きが定着できている。	ｅ：記述の確認、小テスト、定期考査
後期	古典文法	・品詞分類表 ・用言	○				◎	ａ：古典文法に関する知識に触れ、関心をより深めている ｅ：文法の構造を理解し、古典文法の用言についての知識を獲得できている	ａ：行動の観察 ｅ：小テスト、定期考査
後期	小説	・「夢十夜」 ・「とんかつ」	○		◎		○	ａ：小説の文体の違いを味わい、それぞれの世界を楽しもうとしている。 ｃ：発問に対し、読解を反省したうえで回答できている。 e：人称の違いによる小説の文体の違いを理解できている。	ａ：行動の観察 ｃ：ｃ:記述の確認 ｅ：定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力
c:書く能力　d:読む能力　ｅ：知識理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて〇印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。